

第16回全国路面電車サミット in 宇都宮

北勢線とまち育みを考える会  
(ASITA)  
令和5年度活動報告

令和6年1月

北勢線とまち育みを考える会

# 三岐鉄道北勢線



三重県北部 桑名市といなべ市を結ぶ約20km

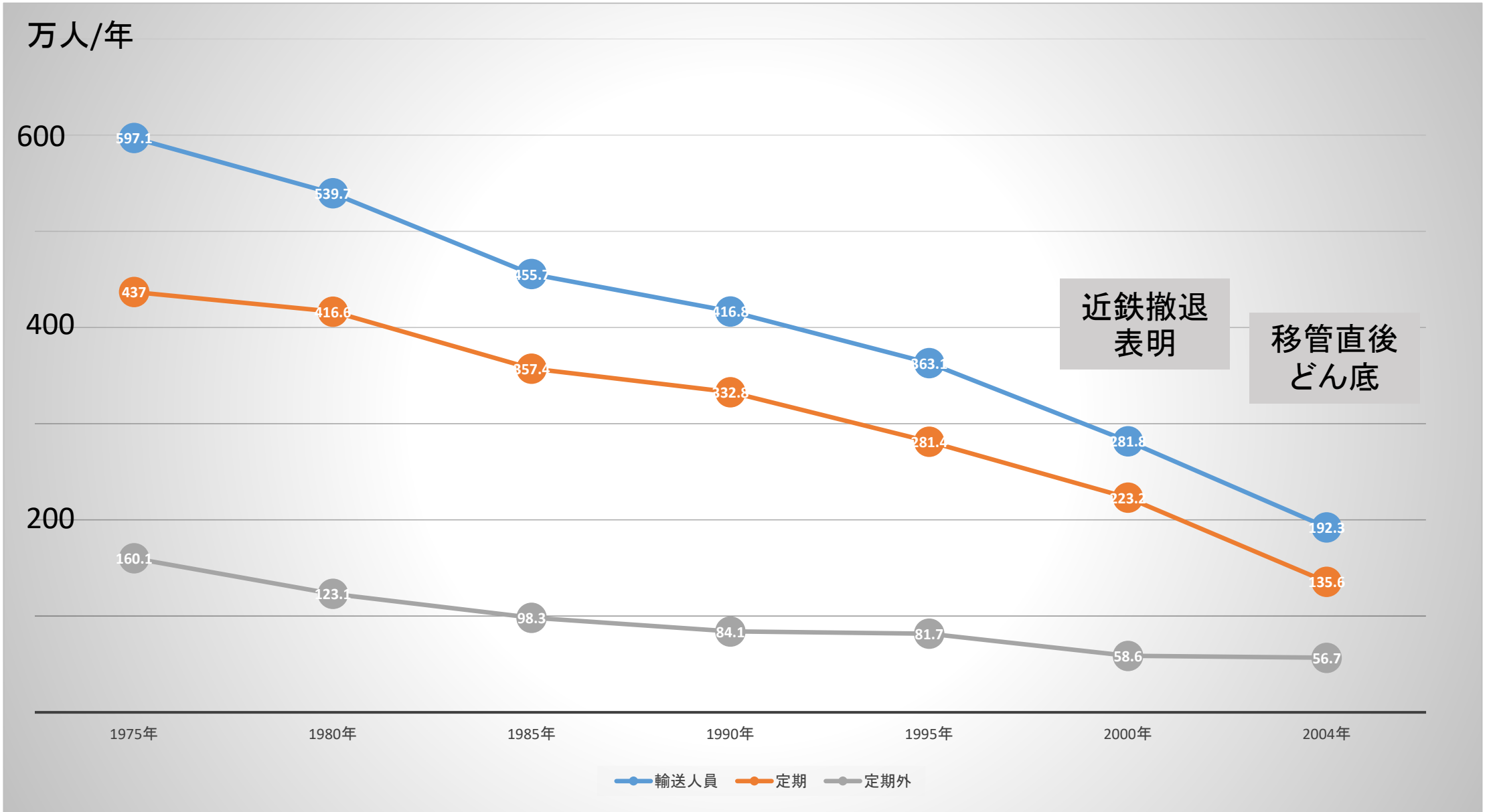
日本に残っている数少ない**軽便鉄道**

日本で3路線しか残っていない

特殊狭軌**軌間762mm**の路線

**1914(大正3)年の開業**から今年で**110周年**

# 北勢線の輸送人員の推移(近鉄時代)



撤退表明時点

輸送密度は**3178**

もありました。

## 鉄道事業者、行政、住民 三者の協働体制

- **三岐鉄道**はリニューアル計画を主導
- **3市町**は鉄道を活かしたまちづくりを推進
- **市民**は利用推進に向けて積極的に関わる



# 展示室内



# 保存車両226号車とミニ電車





# ミニ電車ホクさんと軌道自転車



開館日には…

鉄道マニアや親子連れで大賑わい

昨年の最高来場者数

457名(11月5日)

これまでの最高記録かな

# 北勢線利用者数の推移

千人

300万人

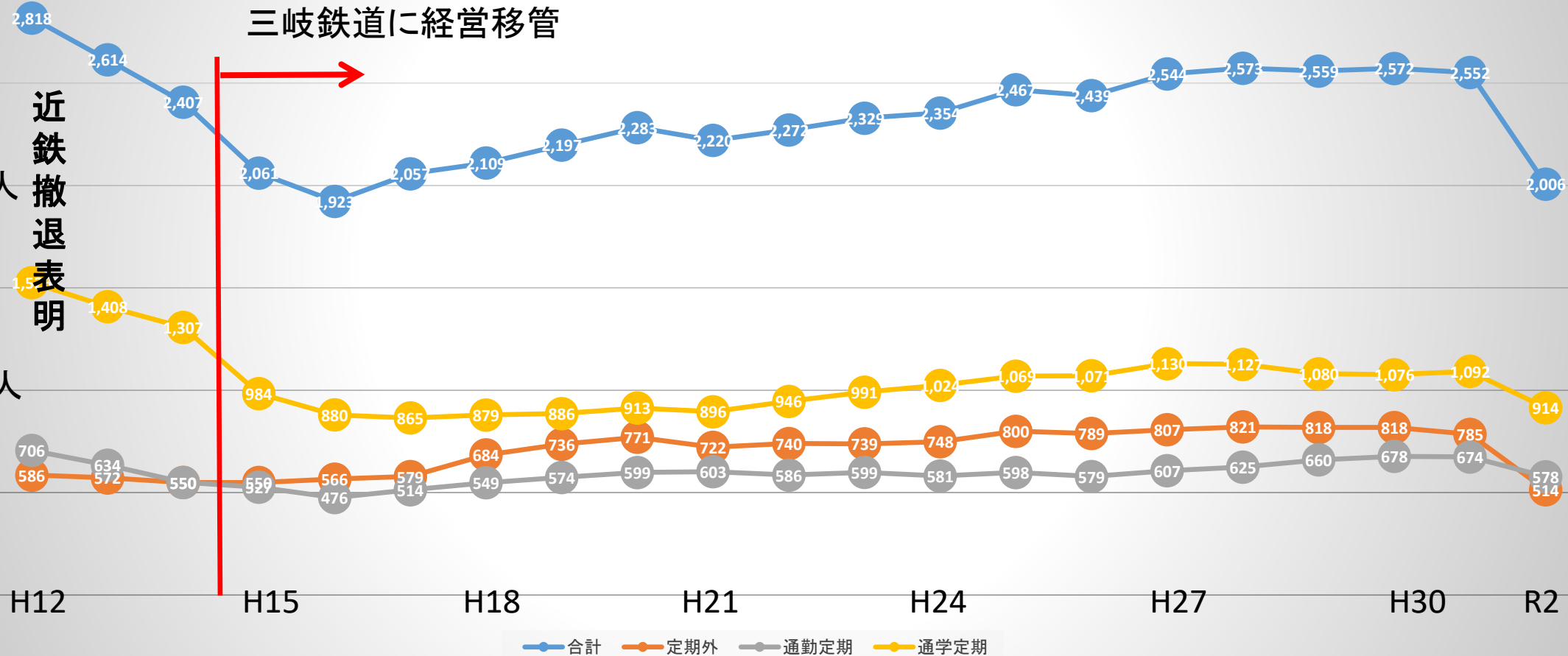
200万人

100万人

0人

三岐鉄道に経営移管

近鉄撤退表明



● 合計 ● 定期外 ● 通勤定期 ● 通学定期



# 勉強会の様子





# マスコミの反応

地方紙に何度も記事として  
取り上げていただきました

伊勢新聞 令和5年(2023年)9月3日 日曜日 第5035号

## 北勢線を生かす、まちづくりを

### 町の未来像など議論

#### 市民や市議参加 具体的な提案も

いなべで市民グループが勉強会



【いなべ】いなべ市の市民グループ「北勢線とまちづくりを考える会（AS-IT-A）」（安藤たみよ会長）が、地域の公共交通とまちづくりを考える勉強会を続けている。七回目の勉強会がこのほど、同市北勢町阿下喜の阿下喜会館で開かれた。

（生田雅子）

桑名市といなべ市間を走る三岐鉄道北勢線は、全国に三つしかない、線路幅が狭いナローゲージ鉄道。二十三年前には、廃線の危機にさらされた。

勉強会は、少子高齢化が進む中、二十年後を見据えた北勢線の将来とまちづくりを考えていくこと、昨年十二月から始めた。AS-IT-Aの会場で、近畿日本鉄道元社員の高文人さん（60）が講師を務めている。過去六回は講義中心で、地域の公共交通に関する基礎知識を学んだ。これから四回にわたり、毎回異なるテーマで参加者同士意見を交わす。

その初回となった八月三十日夜、市民と市議計約二十人が参加した。あなたが思い描く二〇三〇年の市の姿と、阿下喜の町の未来像、地域を支える交通をテーマに活発な議論を交わした。

「いなべは製造業が盛ん。働く世代に住んでもらえるよう市内で余暇が楽しめる場所ができるといい」「鉄道と福祉バスとの接続が思い。改善できないか」などの声が上がった。

市は都市部からの移住者が増え、新しい店もでき変わりつつある。阿下喜に住んで四十年になる女性は、市の情報があつたテレビで取り上げられ、住んでいることが自慢できるようなったという。「マスコミとSNS（交流サイト）の力は大きい。さまざまな分野で活躍する影響力のある人に、市のことをもっと発信してもらったら」と意見を述べた。

活発に意見を交わす参加者たち=いなべ市北勢町阿下喜の阿下喜会館で

ナローゲージでの北勢線の存続は  
今の車両の寿命が鉄道自体の寿命  
となりかねない

ロットが小さく車両更新増備は  
割高になるけれども……

多少割高でも仕方ないとの割り切る  
地域にとって必要な経費だと腹をくくる